

【目的】医薬品の安全使用や薬害の防止という社会的な要請に応えるために、薬学教育の一層の充実を図ることが必要であると指摘されている。本学では6年制薬学教育の開始を機に、初年次教育の一環として「薬学入門Ⅰ」で薬害被害者による講演を導入している。本年度、薬害防止教育をさらに充実するために問題基盤型学習(PBL)と薬害講演を組み合わせたハイブリッド型PBLを実施した。今回、本年度の薬害防止教育の取り組みとその評価について報告する。

【方法】薬害防止の準備学習として、日本薬学会編集「ヒューマニズム・薬学入門」の薬害(SBO 55)を輪読後、問題基盤型学習(PBL)を実施した。学生達は課題を決め自ら学習した成果を発表した。その後、薬害被害者の講演を受講し、薬害防止の報告書をレポートとして提出した。

【結果と考察】レポートには「グループ学習後に講演を聴くことができ薬害防止に理解が深まった」「調査だけでは知りえなかったことを講演で知ることができ、薬害防止に対する気持ちが高まり、人のためになる薬剤師になりたいと思った」と書かれている。薬害に関する正しい知識を学生が自ら学習した後に薬害講演を聴くことで理解を深め薬害防止に向け意識を高めるという本年度の取り組みが薬学生の薬害防止教育として有益であることが示唆された。